（様式１）

県立日立第二高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和６年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

〇創立以来、９７年に及ぶ歴史と伝統の上に立ち、変化してゆく現代社会にあって、校章の野ばらのごとく、「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かな人間の育成に努め、生徒一人ひとりの知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人間の形成を図る。

〇学力増進と進路指導の充実・強化を図り、生徒の適性、能力、希望に応じた進路指導の実現に努める。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、職業や自己の進路に関わる総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、協働的な活動を通して課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

(1) 職業や自己の進路に関わる探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、働くことの意味や価値を知り、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気づく。

(2) 職業や自己の進路との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、まとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 職業や自己の進路に関わる探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自己実現のために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

〇授業担当者会議で学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。

〇評価に際しては、多面的な評価の方法で、学習状況の過程を評価する。

①学習や活動の状況などの観察記録による評価

②討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価

③プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価

④作成した資料・レポート、それらを集積したポートフォリオによる評価

生徒の実態

〇進路も個性も多様で、各自の目標に向かって努力している生徒が多い。

〇挨拶や清掃を進んで実行し、まじめな生徒が多い。

〇地元での進学・就職を希望する者が多い。

生徒の発達をどのように支援するか

〇配慮を必要とする生徒への指導

障害のある生徒の指導に当たっては、個別に声をかけたり、板書や手順表など目で見て何度も確認できる形で示したりするなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、指導方法を工夫する。

目指す生徒の姿

〇心身共に健全な生徒の育成

〇生徒の希望進路の実現

〇地域行事への参加と協力

〇地域に有為な人材の育成

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

〇１学年

働くことの意味・価値と自己理解

(1) 勤労の意味や価値を知り、それが人々の関わりや協働により支えられていることに気づく。

(2) 様々な調査や体験を通して得た情報を基に分析する力、まとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 自己を理解し、将来に向けて「なりたい自分」を考える態度を養う。

〇２学年

職業の選択と社会貢献

(1) 職業を知り、希望する職業に就くために必要な学習があることに気づく。

(2) 様々な調査や体験を通して得た情報を基に分析する力、まとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 自己実現のために行動し、社会に貢献しようとする態度を養う。

国際理解（国際平和）

(1) 平和な社会が持続可能な社会の実現にかかわることに気づく。

(2) 様々な調査や体験を通して得た情報を基に分析する力、まとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 平和学習を通して、在り方・生き方を考える上での視野を広げる。

〇３学年

自己実現と社会参画

(1) 自己の将来や就職に対する目標を明らかにし、知識・技能などに応じて進路実現を果たそうと力を育む。

(2) 様々な調査や体験を通して得た情報を基に分析する力、まとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする態度を養う。

学習活動、指導方法等

〇１学年

探究過程に応じた学校自作のワークシートを中心に学習を進める。講演会、見学会、授業体験などに基づいて探究活動を経験していく。探究過程によっては、４人程度のグループワークを取り入れる。

〇２学年

ワークシートやプリント教材で授業を進める。

探究課題「職業の選択と社会貢献」では、授業体験や就業体験活動なども積極的に取り入れ、実践的に探究活動を進める。

探究課題「国際理解（国際平和）」では、原則としてグループで活動する生徒の主体的な探究活動を、教員が指導・助言に当たることとする。

〇３学年

一人ひとりが自己の希望する進路に沿った体験を中心として、探究活動を展開する。近隣の大学・専門学校等を訪問したり、職場の見学をしたりするなどして、理解を深める。

探究過程に応じて、進路の系統別の学習を取り入れる。

生徒の主体的な探究活動を、教員が指導・助言に当たることとする。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

〇総合的な探究の時間推進委員会（８名）･･･適宜内容や評価等の改善に取り組む。学年担当１名、授業担当者からフィードバックを反映する。

〇授業担当者会議（毎週学年会議）･･･授業担当者と推進委員会の担当者１名で指導方法や評価観点、進捗状況について適宜情報を共有する。

〇総合的な探究の時間研修会（５月）･･･新規採用者、転入者対象に、本校の目標や育てようとする資質・能力についての研修を実施する。

〇インターンシップ、一日看護体験等として連携･･･地域企業、市役所、幼稚園・保育所、病院など